

第9回大田区文化芸術推進協議会 議事要旨

1 開会

日時 令和8年7月7日(火) 9時30分から11時まで

場所 大田区役所2階 201・202 会議室

委員出欠

出席 11名、欠席1名

(事務局 文化芸術推進課4名、地域力推進課1名)

2 委員紹介

各委員自己紹介

3 会長、副会長選出

小林 真理会長選出(全会一致)

片山 泰輔副会長選出(全会一致)

4 本協議会及び大田区文化芸術推進プランについて

事務局から概要を説明

5 議題

(1)大田区文化芸術推進プランの推進について

事務局から本日議論するテーマである「こどもが文化芸術に触れる機会の拡充とそれを支える担い手」について、事例を紹介しながら概要を説明。主なやりとりは以下のとおり。

発言者	発言内容
D 委員	資料の中に区立学校で区所蔵作品を展示した事例の紹介があったが、1つの小学校でしか実施されておらず、他校に展開されていない。こういうことはメニュー化して、他の学校でも実施できるようにしてほしい。また、各施設でやっていることが学校に届いていないように感じる。アウトリーチの取組や事業の広報など、取組を多くの人に届くように工夫してほしい。
会長	D 委員のご発言はとても大事なことで、すでに大田区内でこども向けの事業はやっているが、点になっていてつながりや面で広がりが持てていない。それは、広報が行き届いていないのか、児童・生徒を一度にたくさん受け入れられない、交通アクセスの問題で施設に行くことが難しいといった環境の問題なのか検証する必要がある。

C 委員	私は伝統工芸の普及啓発を行っており、その一環として小学校からの依頼で、小学4年生を対象に総合学習として体験学習の授業をやっている。最近ではデジタル技術が普及し、何でも画面上でできてしまうが、手仕事のすばらしさを知ってほしいという思いでやっているし、その上で AI などデジタル技術を掛け合わせると素晴らしいイノベーションを起こせるのではないかと思う。中学校にも広げてほしいと思っているので、区から教育委員会に声を掛けてもらえないか。
B 委員	私は、大田区教育委員会後援で「こども未来ステージ」という事業を実施している。この事業は「こども夢応援基金」を活用しており、教育格差や経験格差をなくすための事業として行っている。
会長	C 委員や B 委員のご発言にもあったように、すでに区内では様々な活動が行われているが、その活動をもう一押しするのに、区の名義(協賛など)があるだけで活動は広がっていくと思う。行政だけではやれることが限られてしまうので、区民や民間事業者などに関わってもらいながらどうやって活動を広げていけるのか、大田区文化芸術推進プランをより充実して成果を上げていくために大事だと思う。お金をかけなくてもできることはあるので、見直ししながら展開していくと良いと思う。
A 委員	今回の議論のテーマである「こども」とは、何歳から何歳までの話か。また事業予算の想定はどの程度か。この2点がわからないと議論しにくい。 最近よく出る話題に、部活動の地域移行がある。運動部が話題になることが多いが、文化部においても課題はある。こどもたちが一生懸命やってきた文化活動が廃れてしまう恐れがあるので対策が必要。これは、区がアーティストや NPO と協力体制を敷いて、連携するスキームを新たに作るチャンスでもある。 こどもの文化体験を進める上では、C 委員のご発言にあったように、校長先生からの依頼で実施している伝統工芸の体験学習実施などは、みんなが体験できるという点で大変すばらしい。公募プログラムは結局情報に強い家庭の児童しか集まらない。こどもたちみんなに体験してもらうには、学校と連携する方法が最も効果がある。 事務局から例示のあった東京芸術劇場やアーツカウンシルの事例は新しい事業なので、20年くらい前からアート NPO が行ってきた芸術家を学校に派遣する事業や、豊島区や港区、横浜市との連携事例の方がノウハウも実績もあり、参考になると思う。
J 委員	区立小学校の先生が大田区出身とは限らず、教え子である児童に区の魅力を伝えられていないように感じる。将来を見据えるのであれば、小学校の先生

	に区の魅力を伝えていく必要があると思う。私は和太鼓をやっているが、和太鼓に関心がある先生は直接連絡してくるが、そうでない先生はこちらから連絡しても反応が薄い。 区役所、区民ホール、蒲田駅が一体となったフェスティバルをやると、区民も気軽に参加しやすく、文化や芸術の推進ができると思う。蒲田や大森エリアでできると良い。近隣自治体では、駅前で歌を歌ったり演奏できたりするが、大田区ではそのような光景を見かけない。長い目で見て、駅を中心とした文化芸術を生かしたまちづくりの展開を考えてほしい。
F 委員	先日、大田区歴史的風致維持向上計画の認定があった。これは東京都内では、大田区が初めての認定となるもので、長い時間をかけて積み重ねてきた池上本門寺を中心とした歴史・文化が認められたものであると思う。しかしながら、この認定を住民が知っておらず、広報が行き届いていないと感じた。これから歴史と文化の申請は増えていくと思うので、広報ツールも大事になってくると思う。 先程の部活動の地域移行について、地域を巻き込んだ文化芸術の展開をしてほしい。
G 委員	資料番号2にもあるように、こどもが良質な芸術に触れ、学ぶ機会の充実が求められている。区がやっていることをこどもたちに伝えていかなければならないと思う。子育て中のお父さん、お母さんがこどもの手を引っ張って大田区中を歩いてくれるようなウォーカブルなまちづくりを進めてほしい。区の文化施設は資料番号3にあるようにたくさんあるし、他の委員のご発言にもあったようにイベントもたくさんあるので、親がこどもを連れて歩いて行けるような雰囲気やまちづくりができれば、おのずと文化芸術を求めるこどもたちの機運が高まるのではないかなと思う。
E 委員	本物の芸術をこどもに伝えることが大切である。大田区文化振興協会では、0歳から入場できるコンサートをやっている。新たな取組は大変なので、今やっている取組を広げていく方が良い。 大田区文化振興協会が管理運営している施設では、高齢者は無料だが、小学生と中学生は入館料を払わないといけない施設がある(教育活動を除く)。こどもが本物の芸術に触れる機会を拡充するのであれば、入館料の免除はできないのか。
I 委員	私も学校との連携は不可欠だと思う。事業の一環として、博物館・記念館の入館料を無料にしたり、文化施設の見学ツアーをやれると良い。 他自治体の事例では、個人サポーター制度・法人サポーター制度というものがあり、企業の寄付を受けながら、バスの借り上げ代に充てるなど区が執行

	する予算を削減する取組もあるようなので、参考にしていきたい。
副会長	今回事務局から区の事例と他自治体の事例の紹介があったが、それぞれ特徴があって参考になると思うし、充実したプログラムを作ることは大事であるが、少し整理が必要だと思う。すべてのこどもたちに機会をというタイプの事業と、高いレベルを目指す大きく発展できるような機会を与える事業との体系を整理した方が良い。事務局から例示のあった東京芸術劇場と大田区文化振興協会のオペラは、ある程度経験のある人向けの事例だと思う。 大田区は人口が多いので、この両方の事業があっていいと思う。ただ、魅力的なプログラムをつくっても、普段から文化芸術に関心の高い人ばかりが集まって活動するだけでは意味がないので、来てほしい人に来てもらう工夫は必要だ。そういう意味では学校連携はとても大事だ。今は学校の方から部活動の地域移行で困っているの、働きかけるチャンスである。C 委員のご発言にあったように、教科学習ではなく総合的な学習の時間を活用すると良い。ただ現状、相当数の児童・生徒が不登校になっていて、そういう子にこそ文化の場が必要だ。なので、こども食堂などを支援している NPO などと連携し、不登校のこどもにも目を向けた事業を考えてほしい。 資料番号3にあるように区内に文化施設がたくさんあるが、貸館を戦略的に使えると良い。優先予約のルールを新たに作って、区の計画と一緒に推進してくれる団体を優遇できると、区が予算を増額しなくても団体が公立施設を使って活動してくれる。優先予約できただけでも活動をやりやすくなる。

(2) 専門部会の設置について

専門部会の設置について、事務局から概要を説明。主なやりとりは以下のとおり。専門部会の設置について、全会一致で承認された。

発言者	発言内容
会長	専門部会はどういう立ち位置か。
事務局	実際に文化芸術活動を行っている方に委員になっていただき、新たな連携を模索する場として考えている。
副会長	専門部会の今年度の開催回数が2回となっているが、少ないと感じる。実働的なものを期待するのであれば、もう少し回数がないと議論だけで終わってしまい、行動に移すことができないのではないかな。
会長	専門部会を作るのは良いが、区の計画の推進に資するような運営をしてもらいたい。
A 委員	前計画を策定した時も、計画を話し合う委員会とは別に部会があったと思う。部会の設置は良いが、次の計画を策定する時に、当該部会のメンバーも

	計画策定に携わる仕組みでないと、部会で議論したことと計画が連動してこない。文化プロモーションは NHK の番組が起点となっており、これに集中しすぎると一過性になる計画のように見える。長い視点で取り組んでいく必要がある。
会長	情報の伝え方は難しい。専門部会では、これまで区や協会がやってきたことのうち、うまくいってないことを見直す機会にしてはどうか。
D 委員	専門部会のメンバーは、もう決まっているのか。
事務局	現在調整中である。
会長	(仮称)文化資源活用施策検討部会及び(仮称)文化プロモーション部会の2つの専門部会設置については、委員の皆様、よろしいでしょうか。
全委員	意義なし
会長	そのように決定する。詳細については、設置報告を含め事務局において適正に進めてください。

6 その他

案件なし

7 事務局からの連絡事項

特になし

8 閉会